

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和8年3月10日

事業所名:サニー

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善を踏まえた改善 内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	44%	56%	0%	パーティションで区切って集中できる環境づくりをしている	利用児が多い日のスペース確保に努める。
	2	職員の配置数は適切であるか	78%	22%	0%		育成枠を設け、即戦力とは別に長く業界に携わることのできる人材を募集する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	89%	11%	0%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	56%	33%	11%	月1回の職員会議で意見交換・支援内容等の検討を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%	0%	0%	面談や連絡帳での内容を職員で共有し、改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	89%	11%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	13%	75%	13%	法人会議にて他事業所管理者から意見をもらっている。	3~4年に1回の第三者委員評価の日を設定したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	75%	25%	0%	職場内研修の機会を多く持ち、職員同士の交流と研鑽の機会を設けている	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	88%	13%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	63%	38%	0%	Vineland II、SDQ、JSI-R等の発達検査をOTが実施している。	発達検査を1~3年に一度は実施したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	44%	33%	22%	午前中にその日のプログラムの確認を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	67%	22%	11%	子の特性に応じたプログラムを複数用意している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	88%	13%	0%		すべての職員がアセスメントに基づく根拠ある支援活動を仕組めるようになる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%	0%	個別、小集団、集団の活動を入れて計画を立てている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	67%	22%	11%		出勤時間が違う非常勤職員への共有を強化する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	44%	44%	11%		出勤時間が違う非常勤職員への共有を強化する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	0%	記録の視点がぶれないよう、記録票に短期目標を載せている。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	75%	25%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	63%	38%	0%		毎年度当初にガイドラインの読み合わせを行う。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	75%	25%	0%	直接的に支援に関わり、児童と信頼関係を築けている職員を参画させている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	89%	0%	11%	不定期ではあるが、担当者会議や情報共有会など、児発管や管理者が参加している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	38%	50%	13%		看護師の雇い入れを目指す。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	50%	25%	25%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	25%	50%	25%	提供するための情報はまとめているので、対象児が出た場合はいつでも対応できる準備はできている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	43%	43%	14%	法人内でセンター的役割を担う事業所があるので、定期的に意見交換や交流研修を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	78%	22%	0%	低学年との交流を設定し、参加しやすい場の設定に努めている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	50%	50%	0%		自立支援協議会の定期的な開催を事業所からも促していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	連絡帳やSNSを活用し、情報の共有に努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	25%	63%	13%		ニーズの掘り起こしに努める。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	0%		面談時にわかりやすく説明するように心がける。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%		保護者が話しやすい雰囲気づくりや関係性の構築に努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	44%	44%	11%	親子活動の場を設定し交流を促している。	年に1~2回の保護者の交流の場を設ける。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%		なんでも言いやすい関係づくりに努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	季節ごとにおたよりを出すように決めている。	
	35	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%		

	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	33%	33%	33%		取り組むための準備段階であることをふまえ、職員一人一人が地域とのつながりをつくる。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	67%	33%	0%	机上・実技研修を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%		具体的な虐待事例を提示し、虐待予防に努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	89%	11%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	38%	50%	13%	初回アセスメント時の質問項目に入れている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	0%		些細なことでも記入する習慣化を図る。

【総括として】

この評価から見えてきたことは、午前中から業務に就いている常勤職員と午後から業務に就く非常勤職員との認識の差があらわれている。職員間のコミュニケーション不足と環境づくりに課題があることがうかがえる。今後の対策として、個別療育のチームでの取り組み、長期学校休暇中の1日のプログラムを担当者以外でも複数人で企画・立案することなどを通して、風通しの良いコミュニケーションの風土を醸成していきたいと考えている。